

### ①3Dデータ対応のアーカイブシステム

2020年前後、NTTデータはASEAN事務局の依頼で、インドネシア、タイ、マレーシアといったASEAN各国の歴史的文化遺産をデジタル化し、オンラインで公開するアーカイブシステムを構築するプロジェクト「ACHDA」に取り組んだ。このプロジェクトは日・ASEAN統合基金(JAIF)の援助で実施され、同基金による支援を受けた政府案件の一例でもある(図表3-6-2)。

AMLADをベースに、画像・音声・動画だけでなく、立体造形物の3Dモデルも管理・公開できるよう機能を拡張した。モスク建築の装飾品や伝統楽器など、従来写真だけでは伝わりにくかった文化財の形状や質感を、3Dビューワーによって忠実に表現できる点が注目を集めた。

## 6-2. スマートシティ

### (1) スマートグリッドにおけるビッグデータ活用

2012年11月、NTTデータはアイルランド国立ウォーターフォード工科大学のICT研究機関Telecommunications Software & Systems Group (TSSG)と共同で、スマートグリッドにおけるビッグデータ/ビジネス・アナリティクス活用を目的としたデータ分析技術の開発をスタートした。スマートグリッドでは、電力需給のバランスを取るために数分先・数時間先の電力予測を正確に行い、事前に制御する必要があり、予測の根拠となるデータ分析モデルを状況の変化に応じて自動で更新できる仕組みが求められる。NTTデータは、データ分析モデルを状況変化に追従して変化させる仕組みの構築を主に担当した。

### (2) 中国貴陽市におけるビッグデータ解析による交通渋滞緩和の実証実験

2016年、NTTデータは中国の貴陽市政府の協力のもと、

中国科学院ソフトウェア研究所とともに、貴陽市にてビッグデータ解析による交通渋滞緩和施策の実証実験を実施した。具体的には、同市の交差点に設置された約100台の交通管理カメラを通じて収集した、延べ100万台に関するデータ分析結果をもとに渋滞予測・信号制御シミュレーションを行い、最適化した信号設定を同市市街の12交差点の信号機約100機に反映するものだ。対象区間における移動時間が平均で10%、最大で51%、交通処理能力が平均34%改善された。

### (3) ラスベガス市における交通・治安のリアルタイム分析

2018年にNTTコミュニケーションズやDimension Dataを含むNTTグループは、ラスベガス市のイノベーション地区に高解像度カメラや音響センサーを配備し、交通や治安データをリアルタイム分析する実証実験を行った。2019年にかけて検証が進み、モニタリングや初期対応の効率化に成果が得られたため、商用サービス化が合意された。

NTTの「corevo」や「Cognitive Foundation」アーキテクチャーを活用し、マイクロデータセンターでエッジ処理を行い、大量の映像データやSNS投稿、犯罪歴などを統合して異常パターンを検出するものだ。NTTグループはこれをスマートシティソリューションとして他の自治体へ横展開することをめざしている(図表3-6-3)。

### (4) オースティン市・カリフォルニア大学バークレー校との交通対策

2020年5月にNTTグループは、テキサス州オースティン市やカリフォルニア大学バークレー校と提携し、混雑や違法駐車対策としてラスベガス市と同様のスマートシティ技術を導入する計画を発表した。道路や路肩の状況を高精細カメラで可視化し、クラウドで解析して行政・大学当局へリアルタイムに通知する仕組みを構築する。

NTTグループはこの取り組みを通じて交通安全やコネクテッド・キャンパス構想の支援をめざしており、Dell Technologiesなどのパートナーと協業してハイパーコンバージドインフラ+IoTデバイスをパッケージ化するソリューションを提案している。

### (5) 豪州ニューサウスウェールズ州との協業

2021年3月に、NTTはニューサウスウェールズ州とMOUを締結し、シドニー中心部をテックセントラルとして発展させるスマートシティ計画を推進することとした。これを受け、NTTグループはサイバーセキュリティ分野の強化に取り組み、中小企業やスタートアップを巻き込んで研究成果や技術の商品化を推進するコラボレーション拠点(センターオブエクセレンス:CoE)をシドニーに設立した。

図表3-6-2 ▶  
ASEAN Cultural Digital Heritage Archive



出所：ASEAN 日本政府代表部「Launch of ASEAN Cultural Heritage Digital Archive (ACHDA) website」